

## 仙台市・青森市視察復命書

H18年11月6日

静政会

会長 伊東稔浩様

視察者 8名

鈴木 和彦、 杉山 三四郎  
望月 厚司、 田中 敬五  
浅場 武、 前田 豊  
三浦 雅司、 佐藤 成子

下記の通り政務調査費による視察を実施したので報告します。

### 記

- 1、日程 平成18年10月25日（水）～10月27日（金）
- 2、視察先 仙台市・青森市
- 3、視察内容 ① 仙台市PFI事業の展開について  
（予定であったが事故により変更）  
仙台中心市街地の形成の仕方、青葉城跡など観光行政について  
② 三内丸山遺跡を生かした文化財、資料館のあり方、観光行政について

#### ① 予定変更について

視察当日、予定通り静岡駅発8:45 ひかり360号の出発ホームで待機。入車15分前に起きた下り線ホームの人身事故のため、上下線とも新幹線全面ストップ。発車の目途も立たないとの状況に。まず、議会事務局に第一報。1時間30分ほど経過。東京駅での東北新幹線の乗り継ぎも予定が立たず、先方の仙台市の担当者に議会事務局から連絡を取ってもらい、状況の説明。ようやく動き出したのは、約2時間30分後。先方にご迷惑をお掛けすることになるので、後日資料の送付をお願いし予定を変更。仙台市到着後、仙台市最大の繁華街を視察。平日の夕刻から夜にかけての時間帯であったが、街中を歩く人の数はさすが100万都市。緑が多いと感じる。又、街路樹の周りを木製ベンチで囲み、座ることもできるし、木を保護する工夫がされていることに感心した。その地区の住民が世話をしているということで“店先を美しく”の心が伝わってきた。

その後、青葉城跡へ向ったが、そのタクシーの運転手の観光案内ぶりにびっくり。けやき通りのイルミネーションのことや、駅前の様子、美味しい食べ物など説明してくれた。

静岡のタクシードライバーは無口な人が多いといつも思っていたが、市外から訪れる人にとってはそのドライバーがその街の第一印象を担うともいえるので行政指導？も大事なのではないかと思った。

後日、届いた資料を基に視察参加者で自主学習を行う予定でいる。

## ② 三内丸山遺跡を生かした文化財、資料館のあり方、観光行政について

このところ青森市を全国的に注目させているのが三内丸山遺跡とコンパクトシティ構想である。今回コンパクトシティについては視察内容になかったが、宿泊先の隣のビルが、青森駅前第二地区市街地再開発事業「アウガ」であったので、自由視察として大半の視察者が入館した。市場、ファッション、図書館等の公的施設などが一体となった複合商業ビルで、平成13年のオープン以来、年間600万人以上が来館しているという。男女共同参画プラザは、とても上手に空間を利用していると感じた。

さて、今から5500～4000年前のロマンの世界へ誘ってくれる国特別史跡、三内丸山遺跡。縄文時遊館を中心に、“縄文の丘、三内まほろばパーク”と“総合芸術パーク”の2つのエリアで構成されている。

平成4年度から青森県総合運動公園拡張のため三内丸山遺跡の埋蔵文化財調査を実施した際、この国内最大級の縄文集落跡が発見されたのだ。そのため建設中の野球場工事を中止。その後の整備を都市公団事業で進めることを決定。

平成9年に遺跡ゾーンの保存、活用を図る計画を策定し、平成14年縄文時遊館が開館。隣接の総合芸術パークは平成10年プロポーザルコンペを実施し、整備をすすめている。平成18年7月に青森県立美術館がオープンした。運動公園全体は74.8ha.で、そのうち特別史跡区域は24.3ha.である。

この遺跡は計画的な土地利用が認められ、直径103cmもの巨大木柱の跡や、500軒以上の建物跡、土器、石器、土偶、漆器、木製品、樹皮製品、食糧にした動物や魚の骨、植物の種子など多種多様な遺物が大量に出土しており、巨大集落の変遷、大規模な建築や加工技術の存在、北海道から北陸地方に及ぶ広域的な交易など、縄文時代における生活、生産、祭紀、交流、自然環境など当時の集落を取り巻く総合的な環境と社会構成、精神生活の解明が期待できる遺跡である。発掘調査委員会を設置し、継続発掘調査が進められている。大型掘立柱が再現されていたがまさに圧巻であった。大型竪穴住居跡、子どもの墓など、かつての歴史の勉強と異なることもあり、興味の持てるものであった。弥生時代の登呂遺跡の規模とは比較できない広さ。登呂遺跡の整備が行われるということだが、しっかりとした構想で進めてほしいものだと感じた。

私たちに説明してくれたのは、ボランティア観光ガイド・三内丸山応援隊であったが、かなりの専門知識を持った方だった。このような方がいれば、とてもよく理解できる。有料

ではあるが、登呂遺跡でも考えられることだと思って伺った。又、この施設の管理運営は、文化振興課ではなく、観光企画課の出先機関であることも注目に値する。

その後、県立美術館の「縄文と現代」展も視察。学芸員が何と静岡出身ということでより詳しく？説明を受けた。

翌日は「ねぶたの里」を視察。四季を通じて夏の祭りを体験できる施設は県外者にとっては嬉しい施設だ。

次に「棟方志功記念館」に立ち寄る。秋の展示、棟方志功名品展Ⅱ 女性への賛美展を視察。わが市の芹沢銈介との共通項が見えた。同じ“いろはにほへと”を象形化した作品。

それにしても、この豊満な女体、観音像、その独特な描き方に目を奪われる。

この2箇所は予定にない視察であったが意義あるものであった。

その後は何事もなく帰路についたが、街中で聞こえていた津軽三味線の音色が今でも耳に残っている。もう少しすれば、県庁所在地で全国一の積雪を誇る青森市は雪で覆われるだろう。

(文責 佐藤成子)